

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表: 2022年4月1日

事業所名

いろえんぴつ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11		ジョイントマットを設置	ご利用者様が安心、安全に活動できる様にスペースを確保している
	2	職員の配置数は適切である	11		平等に休日を確保	必要に応じて専門職員を配置する。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9	2	ジョイントマットを活用	目的別に仕切り等を用いて整備する
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	11		空気の入替えをする	利用人数に合わせて空間を作る
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	1	職員に自由に目標を作ってもらう	目標達成に対しての助言等を話し合う
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	11		送迎時に聞き取りをする	聞き取り案件を職員が共有し、議題について話し合う
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11		解かりやすくする為に説明書きをする。	広く意見等を聞き取れる様にホームページに公表する。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		11	日々の活動をブログに投稿し色々な意見を聞く	他の施設と交流をとり、意見交換、外部研修等をし、業務改善につなげる
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11		職員のスキルアップの為に費用は上限を定め事業所が負担する。	外部研修、資格取得の機会を積極的に取り入れ時間も確保する
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	11		アセスメントシートを使用する。	保護者様からのヒアリングを徹底しアセスメントシートを完成し、必要なサポートを提供させていただく
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11		アセスメントの見直しを心掛ける	外部の資料を参考資料にし標準化したものを使用する。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	11		ガイドラインの熟読を徹底し情報共有する	各児童の問題点を客観的材料から判断しそれぞれにあった必要なサポートを提供する

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	11		支援計画書は職員が閲覧できるようにする	職員が支援計画内容を把握し支援活動を行う
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	1	意見を聞き、取り入れる	発注が固定化しない様に全職員が参加しプログラムに立案する
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11		児童の意見を取り入れる	遊びから学べる様に児童の意見等を聞き、飽きない様に工夫する
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	11		特性、性格等を情報共有し把握する。	特性に合わせた個別、集団を組み合わせることで細かく作成する
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	11		同じ日は無いと話す。少しの変化も共有する	毎日終了後に職員全員で話し日報作成する
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11		支援で発見等をしたらすぐにグループラインで共有する。	日報に記入し共有する
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11		気が付いたらグループラインにあげる	内容を把握し支援の改善に繋げる
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	11		児童により期間を変更する。	特性を理解し、期間を変更し、計画書の見直しを考案している
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11		職員は特定の児童だけに偏らないようにしている。	その児童の特性をもっとも理解している職員が参画している
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	10	1	相談支援員と連携している	区役所等、関係機関との連携を強化する。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	11		普段から注意深く観察	必要機関と連携し、安心安全に支援を行う
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	11		連携先とのまめな連絡	必要機関と連携し安心安全に支援を行う
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	3	些細な事でも情報交換をする	認定こども園、幼稚園、保育所等との連携強化
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	3	些細な事でも情報交換をする	必要な場合は情報共有し、より良い支援に繋げる
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	3	他の施設からの発信を積極的に受信する。	他の施設と交流をとり、意見交換、外部研修等をし、業務改善につなげる
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいの無い子どもと活動する機会がある	6	5	障がいの無い子供たちと交流する機会を定期的に設ける	外に出て交流する機会をもっと増やせるようにする
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	5	参加はする様にする	積極的に協議会等に参加する

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11		送迎時を利用して意見交換等する	電話、ラインで変化、成長を伝達して保護者様と共に情報共有し理解して頂く
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	8	家族支援の研修を強化	個別療育・ペアトレなど行って無いが外部研修に参加し知識を深める
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11		説明後に不明点がないかを聞き、再度説明する	児童の利害、保護者様の負担に関わる重要な事柄については重点的に説明している
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	11		アセスメントを重視するうえで保護者様からのヒヤリングを徹底している	支援計画作成後は保護者様と共有し同意を得ている
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11		保護者様からの悩み、相談は送迎時等に聞いている	訪問、来所、電話、等を強化し助言を行っている
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	8	保護者様参加型のイベントを企画する	保護者様同士の連携、支援の為の仕組みを構築させる。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	11		児童からの相談はいつでもどこでも、聞くスタンスを徹底している	保護者様と密にお話し、表情等を見極めて、迅速な対応をしている
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11		連絡帳をちゃんと既読して頂ける様に声掛け等をしている	保護者様への情報発信は一斉メール、連絡帳を通じて発信している
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	11		鍵付きの書庫、パスワードを使用している	保護者様の許可無く、支援目的以外で外部漏洩する事が無い様に厳重に管理している
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11		ゆっくりと理解しやすい表現方法をしている	視覚、聴覚、理解しやすい言葉を使い情報を伝達している
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	8	日頃から挨拶、近隣の掃除などをする。	地域住民の方が気軽に声をかけて頂ける様に参加型のイベントを考案する
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	11		こども110番に加入し近くを通る子供たちにも挨拶を心掛けている	マニュアルを活用し訓練を定期的に行っている
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11		地域の消防署から訓練実施指導を受ける	半年に1度訓練実施を行う	
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	11		初回面談時に使用している情報シートに必須項目にしている	服薬、発作時の対応等も記入し確認している	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9	2	初回面談時に使用している情報シートに必須項目にしている	保護者様の初回面談時の聞き取りによる対応です。医師の指示書が必要な児童に対して、指示通りに対応する
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11		その都度報告するようにしている	各自、共有できるようにグループラインに記載し、事例書を書き、対策を行っていく
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11		職員のストレスを軽減出来る様に、仕事外での悩み相談等をしている	虐待防止に関わる研修等は必須研修にしています
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	11		日々児童同士、その特性を理解しあえる環境を考案している	他の児童に危害が加わる恐れがある場合はでも、児童から離し、クールダウンをして頂く。現時点では当事業所は拘束はしない

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。